

第 16 回

「もっと自然の中で遊びませんか？」

Would you like to spend more time in nature?



松尾廣伸（静岡大学）

皆さん、こんにちは。暑くて外にも出られないのに、また、水難事故も起きているのに、何を言うのかとおっしゃる方もいらっしゃるでしょう。この原稿が出るころには、もう、暑さも落ち着いていることを願います。もちろん、危険な中で外に出ようと言っているわけではありません。

今年も大雨による大きな被害が発生しました。被害にあわれた皆様そして関係者の皆さまにお見舞いとお悔やみを申し上げます。そして、私たちはこのような災害が、この先多くなりこそすれ、減らないであろうことを既に感じ取っているのではないのでしょうか？

このところ、私は毎週のように釣りに行っています。この号が出るころには、手軽で美味しいハゼ釣りが最盛期を迎えていることでしょう。ぜひ、ハゼ釣りに行きましょう。最近の大物は、真鯉 95cm、キビレ 48cm です。これらは同じ場所で釣れたものです。最近では佐鳴湖でスズキやカレイが釣れたとの話も聞きます。昔は、ここまで海の魚と川の魚とが混ざっていなかったように思いますが、佐鳴湖の水をきれいにするために新川放水路を作り、浜名湖とのパイプを太くしたために、佐鳴湖の塩分濃度がどんどんと高くなっています。また、新川の土手も芦原、草原、石積がほとんどなくなり、コンクリート護岸になってしまいました。治水はもちろん大切ですが、もう少し自然を生かす形があったのではないかと思います。これで生物多様性云々というのは無理があります。それを云えば、特定外来生物の多さも目に付きます。どこの川に行ってもアカミミガメがたくさんいます。酷いときには数十匹が辺り一面に浮いています。イシガメはほとんど見かけなくなりました。ナガエツルノゲイトウも伸び放題です。浜名湖ではアサリが取れなくなりました。

また、釣りに行くと、多くのごみが散乱し流れており、ポイ捨てされているごみの多さに驚かされます。たぶん、ポイ捨てしてしまう人は、自分がその中で暮らしていることを目にしていないのでしょう。実体験に勝るものはないと思います。私は車で釣りに出かけることが多く、かつ、根掛かりがあり仕掛

けが切れてしまうことも多いので、環境に害を与え、自然を汚してしまっていると思います。それでも、自分が結果的に出してしまった以上のゴミは拾って帰ってくるようにしています。皆がそうすれば、ゴミは少しでも減ってくれるのではないかと思います。こんなことを書けば、きれいごと、気休め、偽善だと言われるかもしれません。その通りでしょう。でも、やらない善よりやる偽善だと思いませんか？

ここまで、釣りに伴う体験からの思いを書いてきましたが、環境問題・エネルギー問題も同じだと思いませんか？気温が上昇し、気候変動が大きくなって、まだ他人事のように思っている人が多いのではないのでしょうか？私たちはエネルギー無しで生活することはできません。私たちの生活は、未来は、自分たちで守らなければなりません。一人一人ができることはほんの僅かなことだと思いますが、それでもやらないよりはマシなはずで。

現在、エネルギー問題（特に蓄エネ）は、その基準が効率からコストへの転換点にあるように思います。もちろん、効率が良くてコストが安く、かつ、環境負荷の低いものがあればそれが最も良いわけですが、なかなか全てを満たすものはありません。「故きを温ねて新しきを知る」で、砂・岩石電池や重力蓄電も再び着目されています。PV 導入のために自然破壊をしたのでは本末転倒なのは明らかです。再エネは適切な場所で推進しつつ、その変動性を吸収し活用する仕組みの導入が必要です。蓄電池ばかりが注目を浴びているように思いますが、大量の蓄電池は PV と同様に資源の問題と廃棄問題を引き起こします。短時間対応は蓄電池に任せるとしても、大容量化には物理電池も再考の余地がありそうです。例えば、稼働率が低下した高層ビルのエレベータースロットや廃ビルの解体まで間を重力電池に活用し、かつ、レジリエンスの向上を図るというのはいかがでしょう？私たちにはまだやれることが沢山あると思います。自然で遊び、自然の変化を体感し、自分のこととして、小さなことから、各々が取り組むようになればと思います。